

2019研修分科会開催案内

第3回 2019年8月1日(木) 13時~17時

会場：文化学園大学 A館4階 A045a

テーマ：デジタルアーカイブ



Japan Search (Beta)より2019.6.29画面キャプチャ

「図書館」の機能は建物・場としての図書館，そこにある蔵書を利用する空間という従来の概念を超えて，広く「情報」や「サービス」を提供する存在に変わってきています。図書館に来なくても情報やサービスが受けられることは，利用者にとって画期的な価値だと思います。インターネットが普及して，極端な表現をすれば，ネットになれば存在しないも同然の時代において，これからの図書館の価値は情報のデジタル化，ネットワーク化によって発揮されるものと言えるかもしれません。

今回はそこで，情報をデジタル化すること，デジタルアーカイブについて皆さんと考えていきたいと思います。デジタルアーカイブが進むにつれ，これは資料を「所蔵する」という枠組みと随分異なる概念だということに気づきます。さて，皆さんの図書館ではどのような取り組みがされているのでしょうか？また，世界に開かれたデジタルアーカイブスには，すでにどのようなものがあるのでしょうか？「所蔵」とは違う資料の取り扱いを一緒に学んでいきましょう。

デジタルアーカイブを一般の利用者や研究者の視点で考えるとき，wwwの世界に通用する標準化や，共同・連携といった方向が重要になってくるのではないかと考えます。また，ネット上にオープンになっていても，必要なメタデータが付与されていないとうまく活用されません。さらに，ワンストップであらゆる情報が検索できれば，どんなに便利でしょう。利用者に先立って，私たちはその活用術も学んでおかなければいけませんね。

会場をご提供くださる文化学園大学図書館とファッションリソースセンターも見学させていただけることになりました。こちらもとても楽しみです！（IAAL 高野真理子）

会場案内



Time table

13:00-14:30	講演「ジャパンサーチの目的と概要」
14:30-14:45	質疑応答
14:45-15:00	休憩
15:00-16:30	ワークショップ（事例報告）
16:30-17:00	文化学園大学図書館・ファッションリソースセンター見学

講演：ジャパンサーチの目的と概要

国立国会図書館 高橋良平氏（電子情報部電子情報企画課連携協力係長）

「2019年2月27日、ジャパンサーチ（試験版）が公開されました。」というニュースをご覧になった方も多いのではないかと思います(カレントアウェアネス2019.2.27)。今回は国立国会図書館を中心に構築が進められているジャパンサーチの目的と概要についてご講演をお願いしました。そこには「日本が保有する書籍、文化財、メディア芸術等の様々なコンテンツをまとめて検索できる「国の分野横断統合ポータル」」だと書かれていますが、そもそもジャパンサーチはどのような経緯で始まったのでしょうか。内閣府知的財産戦略本部のもと2017年4月にまとめられた報告書「我が国におけるデジタルアーカイブ推進の方向性」等、国の施策の背景や、ジャパンサーチの目指すところと概要をお話しいたします。また、公開されているβ版のデモを通して機能を実際に見せてくださいます。昨年度の国立大学図書館協会シンポジウムや、7/17「ジャパンサーチ発信！連携拡大に向けて」等のイベントで今熱い視線が集まっています。今回は直接初心者への質問にも応えていただける貴重な機会です！！

事前課題

(文中のURLはすべて2019.6.30アクセス)

提出不要の事前課題

昨年(2018年度) 10月に行われた国立大学図書館協会シンポジウム「大学図書館デジタルアーカイブの活用に向けて」の公開資料のうち、講演2の「配布資料」と、パネルディスカッションの「コメント票」を読んでおくこと。(シンポジウムのURL: <https://www.janul.jp/ja/operations/symposia/2018/symp2018>)

講演2の配布資料「ジャパンサーチの目指すところ」(国立国会図書館 徳原直子氏):

https://www.janul.jp/sites/default/files/2018-12/18sympo_2_tokuhara_1.pdf

パネルディスカッション コメント票のまとめ:シンポジウム参加者の質問と回答

https://www.janul.jp/sites/default/files/2018-12/18sympo_qanda.pdf

要提出の事前課題

以下の1.2.のどちらかを選んで、発表スライド4枚(表紙を含む)に概要をまとめてください。所属する図書館でデジタルアーカイブの取り組みを行っている、もしくは具体的に計画中の場合は1を選択、行なっていない場合には2を選択します。

1. 自館のデジタルアーカイブの取り組み
2. 世界のデジタルアーカイブから1つ選んで概要を紹介

【参照】

どちらを選択した場合も、内閣府のデジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会 (https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/index.html) のサイトを参照しましょう。

1.→ここにある「デジタルアーカイブアセスメントツール」を使って自己点検評価をしてみることも良いと思います(任意)。項目で対応しているかどうかチェックボックスにチェックするだけで、取組内容のグラフ化ができるツールを送っていただきましたので添付します。

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/jitumusya/2017/assessmenttool.xlsx

2.→第二次中間取りまとめ(下記のURL)の5.デジタルアーカイブに関する諸外国の取組状況(p.23-32)にあがっているアーカイブを1つ選んで、実際に検索・閲覧してみて概要を紹介してください。例) Europeanaについて、DPLAについて、InternationalArchive, Hathitrustについて、等 https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/jitumusya/2018/torimatome2.pdf

【形式】

発表スライドは、PowerPoint, Keynote, Preziどれでも構いません。

ファイル名は「2019研修分科会課題3_氏名」としてください(Preziの場合は、URLを送ってください。)

提出期限: 7月25日(木) 開催1週間前です。

提出先: 2019研修分科会メーリングリスト